

がん在宅支援3団体助成

光と愛

読売光と愛の事業団による「がん患者在宅療養支援事業」の助成先が決まった。自宅で療養するがん患者や家族を支える団体の活動を後押しするもので、都内からは、いずれもNPO法人の「がん患者サポート研究所 きぼっこの虹(墨田区)」「希望の会(渋谷区)」「がん患者団体支援機構(世田谷区)」の3団体が選ばれた。それぞれ40万〜50万円が支給される。

孤独にさせない 患者訪問

がん患者サポート研究所 きぼっこの虹 (墨田区)



がん患者らの訪問相談事業に取り組み椎名さん(墨田区で)

がんの治療を続けながら、社会生活を送る患者らを支えるために発足した研究会が前身となり、2013年に看護師らがNPO法人として設立した。がん患者や支援者らが定期的に集まって悩みを語り合う会を設け

がんの治療を続けながら、社会生活を送る患者らを支えるために発足した研究会が前身となり、2013年に看護師らがNPO法人として設立した。がん患者や支援者らが定期的に集まって悩みを語り合う会を設け

だが、コロナ禍で患者たちが集う機会をつくるのが困難に。患者や家族が孤立を深める事態が懸念されたため、22年12月からは自

ら患者たちのもとを訪ねて話を聞く事業を始めた。

がんを妻を亡くした男性を訪問すると、「時間をとって、話に耳を傾けてくれることがうれしかった」という声が届いたという、メンバーにとっても励みになっている。助成金はこれらの事業を支えていて、看護師でもある代表理事の椎名美恵子さん(60)は「患者や家族たちが、その人らしく生きられるように支えていきたい」と力を込める。



患者の電話相談に応じるボランティア(世田谷区松原の区保健センターで)

スキルス胃がん 情報発信

希望の会 (渋谷区)



がん患者や家族への情報提供に力を入れる「希望の会」の理事長(千代田区で)

難治性のスキルス胃がんの患者・家族会として、情報発信や政策提言を続けている。2016年に夫の哲也さんを亡くした藤浩美理

れるスキルス胃がん患者は、15〜39歳の若年層も多く、介護保険の対象外となることが大きな課題だ。在宅療養に必要なベッドやヘルパー費に保険は適用されないため、経済力が十分ではない人々にとっては特に大きな負担となっている。

一方で、支援態勢は自治体ごとに異なる。3月に渋谷区で若者向けの啓発イベントを開くことにしている轟さんは、「最期の過ごし方は患者のみならず、遺族のその後を大きく左右する」とした上で、「在宅を希望する患者や家族が、切り捨てられることのない社会を実現したい」と語る。

治療環境改善へ声届ける

がん患者団体支援機構

(世田谷区)

がん患者の声を社会に反映させるための活動に従事する。2005年の設立後、実際にがんとの闘いを経験した人々が運営の中核を担っている。

年1回の「がん患者大集会」では、全国から患者や医療関係者らが集まる。それぞれの体験や知見をもとに「最期の迎え方」「在宅医療」などの幅広いテーマで意見を交わし、厚生労働省や日本医師会に「現場の声」を届けている。

がんを乗り越えた人が、患者や家族の相談に応じる「ピアサポート」にも力を入れる。武蔵野市の武蔵野赤十字病院や世田谷区保健センターなどで、面談や電話で話を聞いていて、当事者としての経験談や治療との向き合い方を伝えている。

事務局長を務める山田陽子さん(71)は「これからも患者目線を大切にしながら、がんを取り巻く環境を改善していきたい」と目標を掲げている。

がん患者サロン 工事費に助成金

読売光と愛の事業団

読売光と愛の事業団が実施する「がん患者在宅療養支援」の助成先が決まった。県内からは岡崎市の「ホスピス研究会OKAZAKI」が選ばれ、15万円が支給される。

同団体は、生後3か月の長男をてんかんで亡くした金田亜可根さん(69)が2000年に設立した。

医療と命と暮らしをつなぐ場を作りたいとの願いがあったという。当時はがんの緩和ケアが一般化していなかったが、ホスピスのあり方を学ぼうと、がん患者ら約120人が集まった。08年には患者の会を設立し、手術を終えたがん患者

患者の会参加者と活動を振り返る金田さん(左) (岡崎市で)



らが月2回サロンに集合。金田さんが用意する野菜中心の食事を楽しんだり、体力回復に効果のある方法の情報交換をしたりしている。

助成金は患者らが集う金田さん方のサロンとベランダを隔てる窓などを撤去する工事費に充てられる予定。金田さんは「広いスペースを一体的に使えるようになり、明るい部屋になる。患者さんが家に引きこもらず、ここで自分に合ったケアの方法を見つけてくれれば」と期待している。

60代	256
64歳	89
69歳	85
74歳代	131
79歳代	89
84歳以上	41
不明	0
計	2473

(第3種郵便物認可)

産 新 産

「こころの駅舎」を助成

読売光と愛の事業団が実施する「がん患者在宅療養支援事業」の助成先に、県内では東広島市の「がん患者さん・家族・支援者のつどい こころの駅舎」が選ばれた。約10年間で、がん患者と家族に寄り添い、前向きに生きる環境を作ってきた。

(石田仁史)

助成事業は2020年度に始まり、今年度は全国の計7団体に決定。「こころの駅舎」には50万円が助成される。「こころの駅舎」は、東広島地区医師会が「患者と家族の集いの場を」と2012年12月に活動を開始したが始まり。当初は保健所と共同で運営していたが、その後、市との共同運営に移行。市の資

光と愛の事業団

金支援で保健師や薬剤師らと交え、市中部の東広島芸術文化ホール「くらら」で、月1回の交流会やイベントなどを続けてきた。団体名の「こころの駅舎」が命名された理由について、医療的支援を担う同市の「高橋ホームクリニック」院長の高橋宏幸さん(60)は「治療の長い『旅』の途中でちょっと



「ケア帽子」を手作りする「こころの駅舎」のメンバー(東広島市で)

東広島にがん患者交流の場

立ち寄り、重い荷物を下ろして、また次へ向かう。そんな場になればと団体の創設者が名付けた」と語る。

「くらら」では葛藤を抱えながら悩みや苦しみを共有する患者と家族が触れ合い、語り合う場を設けてきた。26日にあった交流会には10家族以上が参加。全員が明るく近況を話し合い、笑いながら歓談した。同医師会・地域連携室「あざれあ」の室長、三上雅美さん(62)は「友人と一緒に来ると来られなかった人が、交流するうちに一人でも参加するようになった。花飾りやタペストリーを寄せてくれる人もおり、今後も笑顔が絶えない場になれば」と話す。

助成金は、抗がん剤治療で頭髪の脱毛に苦しむ人に向けた「ケア帽子」の作製や、がん治療の体験談をまとめた冊子などの印刷経費などに充てる。「こころの駅舎」代表で同市の三木医院院長、三木乃慈子さん(56)は「支援者も増えており、患者や家族が心を共有できる場として、長く続けていきたい」と話している。

ナ

市町別

1 2023年01月31日 読売大阪 朝刊 広島 13版 25頁

(第3種郵便物認可)

2023年(令和5年)2月1日(水曜日)

頁

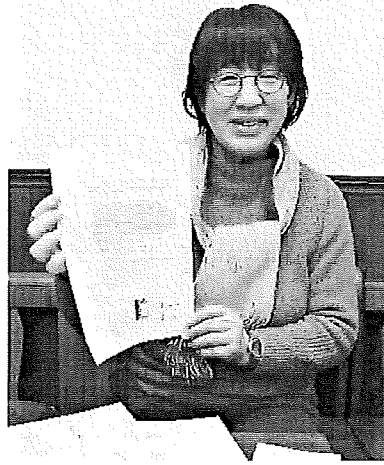
頁

頁

がん患者支援に助成 光と愛

読売光と愛の事業団が実施する「がん患者在宅療養支援事業」の助成先に、県内から2団体が選ばれた。「ウエル・リビングを考える会」(神戸市須磨区)には17万円、「医療と暮らしを考える会」(神戸市中央区)には30万円が助成される。2020年度に始まった事業で、今年度は全国で7団体が選ばれている。

相談室のチラシを手に、助成に感謝する藤本さん(神戸市東灘区で)



相談できる場所づくり

神戸の団体・藤本さん

市民団体「ウエル・リビングを考える会」は2005年、がんで母を亡くした藤本啓子さん(70)が設立。藤本さんは、苦痛と闘う終末期のがん患者らが安らかに過ごす施設「ホスピス」のボランティアや電話相談の経験があり、19年からがん患者や家族に寄り添う「まちなかカフェ・がん相談室」を月1回程度開いてきた。

喫茶店で飲み物を片手にリラックスしながら、がん患者らが互いの不安を語り合う。また、がんや緩和ケアの専門的な知識を持った看護師を招き、当事者らが気軽に悩みを打ち明けることもあるという。

藤本さんは「患者が望む治療を選択するため、病气について知り、心の内を吐露する場所が必要。同じ境遇の人と分かち合うことで、安心や心強さから徐々

に表情が和らぐんです」と話す。新型コロナウイルス禍で、2021年度は相談室をほとんど開催できず、市民向け勉強会

闘病の心得 セミナーで 神戸の団体・宮本さん

セミナーの意義について語る「医療と暮らしを考える会」の宮本理事長(神戸市中央区で)



一般社団法人「医療と暮らしを考える会」はがん当事者とその闘病を支える家族らがより心豊かに暮らせるように、医療従事者から様々な治療法について聞いたり、患者に寄り添う心得を学んだりするセミナーな

らしを考へる会」はがん当事者とその闘病を支える家族らがより心豊かに暮らせるように、医療従事者から様々な治療法について聞いたり、患者に寄り添う心得を学んだりするセミナーな

も実施できなかった。助成金は、相談室の周知のため、病院などに置くチラシの印刷や郵送代に活用するほか、会場の喫茶店への利用料にもあてられる。藤本さんは「コロナ禍で活動資金の調達が難しく、助成は大変ありがたい」と感謝し、「今後は相談室の利用者も増やすなど、さらに活動の幅を広げたい」と話している。

った支援やかけられてうれしかった言葉などを聞いて、支援の方法や心構えについて学んできた。同法人の宮本直治理事長(62)も元がん当事者だ。大阪府内の病院で薬剤師として勤務していた7年末、ステージ3の胃がんと診断された。「死を意識した時に、仏教を学びたいと思った」といい、3年間修行に励んで浄土真宗の僧籍を取得した。

その後、病院で働きながら様々な病気に苦しむ患者の姿を見て、「生まれてきたらみんな死ぬ。その最期までどう生きるかが大切じゃないか」と思うに至り、20年に団体を設立した。「つらいことはある。でも泣きながらも前を向いて生きていこうと思えるコミュニティを作りたい」。セミナーなどを通じて伝えようと願っている。

天気	神戸	姫路	洲本	三田	豊岡	丹波
午前	☁	☁	☁	☁	☁	☁
午後	☁	☁	☁	☁	☁	☁
夜	☁	☁	☁	☁	☁	☁
降水確率	20	20	20	20	50	20
最高最低	13/4	13/-2	15/0	12/-5	11/-1	11/-2
2(木)	☁	☁	☁	☁	☁	☁
3(金)	☁	☁	☁	☁	☁	☁
4(土)	☁	☁	☁	☁	☁	☁
5(日)	☁	☁	☁	☁	☁	☁
6(月)	☁	☁	☁	☁	☁	☁
7(火)	☁	☁	☁	☁	☁	☁
最高最低	8.7/2.6	9.7/-0.3	9.0/1.9	5.8/-2.6	5.9/0.2	6.5/-1.2
最高最低	9.0/1.5	9.3/-2.5	8.1/-0.6	7.4/-4.6	7.1/0.0	7.6/-2.6
最高最低	1.5/2.6	-2.5/-0.3	-0.6/1.9	-4.6/-2.6	0.0/0.2	-2.6/-1.2

あすのこよみ
2月2日(木曜日)
旧暦1月12日=赤口

日出 6:57
日入 17:29
月出 14:08
月入 4:33

中潮 月11.3

満潮	干潮
神戸港 8:29	—
明石港 9:49	0:18
姫路港 10:30	1:59
	20:02 17:16
大阪港 8:28	23:58